

生きる力をはぐくむ指導と支援のあり方

～中学部・高等部の学習指導要領に基づいた

学びの連続性に着目した授業実践～

千葉県立船橋夏見特別支援学校 電話 047-429-6699

FAX 047-438-2099



研究のポイント

研究指定を受け、副題にある学習指導要領に基づいた学びの連続性に着目し研究を進めていく。1つめは主体的・対話的で深い学びを実現する授業実践。2つめは授業と教育課程の繋がりを意識した授業実践。また、研究を進めていく上で、学校研究と研究指定の接続に配慮しながら研究に取り組み、質の高い授業の展開と、職員の教育課程の作成と改善における参画意識の向上を図ることを目的とする。

■学校の概要 <https://www.chiba-c.ed.jp/f-natsumi-sh/>

平成27年度に開校し肢体不自由のある中学生・高校生を対象とした学校である。生徒の障害の特性に応じた教育課程として「準ずる教育課程（A課程）」「各教科等を合わせた指導を中心とした教育課程（B課程）」「自立活動を中心とする教育課程（C課程）」を設けて教育活動を展開している。

■研究課題

学習指導要領の趣旨を踏まえ、各教科等の目標・内容の理解を深めるとともに、生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の在り方について実践研究を行う。

■研究の目的と方法

【研究の目的】

- (1) 中学部と高等部の学びの連続性を意識し、主体的・対話的で深い学びを実現する授業実践を進めていく。
- (2) 学習指導要領に基づいた各教科の目標を踏まえた授業実践を進めるとともに、職員の教育課程の作成と改善における参画意識の向上を図る。

【研究の方法】

- ①課程ごとの3つの研究グループで主題を設定し、各グループの研究主題に関連した研修を行うとともに、研究実践に取り組む。
- ②教育課程編成における職員の意識調査を2回行い、変容を検証していく。
 - A 課程（準ずる教育課程）：授業実践を中心として研究授業を行い、互いの授業づくりの検討や参観、評価を行う。また、生徒の課題でもある思考力・判断力・表現力の育成に向けて、研究仮説の検証と教師の指導スキルの向上を目指す。
 - B 課程（教科等を合わせた教育課程）：授業リフレクションを行い、生徒の思考に着目しながら実践をまとめる。また、各教科の学びの連続性についてB課程内で協議を行い、教育課程の作成改善に向けての参画意識の向上を図る。
 - C 課程（自立活動を主とする教育課程）：中学部・高等部で3つの教科グループ（音・美・体）に分かれ授業リフレクションを行い、授業の前後で単元計画表を用いて授業の在り方や生徒の目標・手立て・様子の共有や検討を行う。

■研究概要

(1) A課程の取り組み

<成果>

- ①各教科における、思考力・判断力・表現力等の具体的な力を整理することで、教師の生徒に対する手立てが効果的だったか検証することができた。
- ②協議会をとおして中学部と高等部の学びの連続性や、各教科の繋がりについて整理することができた。
- ③生徒の自己評価を、言語活動における個々の実態把握に生かすことができ、効果的な手立てを検討する上で、生徒の視点を取り入れるための要素となった。

<課題>●「思考・判断・表現」の観点に対する評価基準を検討する。

- 生徒の視点から効果的な手立てを検証する方法を確立する。

- 授業ごとの学習課題に対する授業内容の精選を検討する。

(2) B課程の取り組み

<成果>

- ①生徒の強みと生きる力について自由記述をもとにカテゴリーにまとめたことで、B課程の生徒の特徴や卒業後を見据えた生きる力について共通理解することができた。
- ②焦点授業のリフレクションによる協議を行うことで、生徒の思考が働く学習内容や教材の工夫などについて協議することができた。
- ③各教科の単元計画における3年計画（案）を学習指導要領の内容と照らし合わせることで、中高6年間の各教科の学びの履歴を確認できた。また、中高の教科担当者同士の協働が見られた。

<課題>●中学部・高等部の学びの連続性に着目し、教科ごとに単元、学習内容の学習指導要領との整合性を検証する。

- 3年間または6年間の一人一人の生徒の学びの成果に視点を当てて、教育課程の検討を行う。

(3) C課程の取り組み

<成果>

- ①学習指導要領を基に3観点を意識して単元や個人目標で整理し、各教科の視点で授業を検討するようになった。
- ②実態表をもとに実態把握や手立て、単元計画表を使って、それぞれの単元における個々の目標を共通理解し、授業の改善案や支援方法の話し合いの充実につながった。
- ③授業の動画を視聴することで個々の生徒の学習の積み重ねを知ることで、学びの連続性への意識が出てきた。また中学部・高等部で使用している教材や手立てなどを共有でき、今後の授業づくりや単元計画に反映することができた。

<課題>●学習指導要領と単元や個人目標、個々の実態と学習段階の整合性などの確認を行う。

- 授業改善の話し合いを他の単元で実施するための方法や場の確保するための検討が必要である。

- 中学部・高等部の間での情報共有や学びの連続性をさらに充実させるための場の設定の継続。

(4) 教育課程における意識調査結果（6月・11月）

- ・長期的な視点（卒業後、中高一貫）に関する質問項目では、2回の調査ともに高い結果が得られ、昨年度に引き続き本校の強みとなった。また、多くの職員が教育課程編成の手順を理解する必要性があると感じている結果から、教育課程への参画意識の向上につなげていきたい。そして船橋夏見として特色ある教育課程について考えていきたい。